

## 令和3年度 入学式 式辞



本日、和歌山大学に入学された975名の皆さん、入学おめでとうございます。そして大学院に入学・進学された244名の皆さん入学・進学おめでとうございます。皆さんを和歌山大学に迎えることを列席しております理事・副学長、学部長および教職員とともに、心よりお祝いたします。

また、ご多用のところ、門出となるこの式にご臨席を賜りました和歌山県副知事 下宏様、和歌山市長 尾花正啓様、本学後援会 会長の檜畑直尚様、副会長の大江嘉幸様、井出幸男様、増田健司様、副会長代理の蓬莱史昭様には、衷心より御礼申し上げます。

依然として、新型コロナウイルス感染症の感染は拡大し続けており、個々人で感染防止の基本行動をとることが求められる日々が続いています。この感染拡大の防止に加えて、地球温暖化、エネルギー問題など、我々の社会は今、解決すべき多くの課題を抱えています。これら課題の解決には、社会のあり方を大きく変革することが必要となります。例えば、喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症を抑え込むには、人と人との直接のコミュニケーションを見直し、遠隔授業やリモートワークなどを取り入れた、ニューノーマルと呼ばれる新しい日常を確立することが求められます。大学に関わりの大きな授業を考えると、従来は一つの教室に集い、そこで大勢の学友とともに授業を受けることが当たり前でした。しかし、行動範囲の広い学生の皆さんの間での感染リスクを下げるには、オンラインを活用した遠隔授業の実施が非常に有効であり、本学でも昨年度からこの方法を取り入れております。もちろん、このような取り組みは、利点ばかりではなく欠点もあります。大学としては学生からの意見を聞き、欠点を補いながら利点を伸ばし、学びを深めていく取り組みとし

て、皆さんの多くが理解し、納得できるよう努力をしなければなりません。このように、今までの習慣と新しい習慣の対立は常に我々の傍にあり、その調和を経て、社会のあり方が変わっていくこととなります。大学は、社会との連携性が最も強い教育機関であり、このような対立と調和を乗り越えて新しい社会を作り上げる力を培う場としての存在意義を持ちます。

令和2年度の学校基本調査によると、現在の現役学生の大学進学率は54.4%となっています。実に、18歳人口の二人に一人が大学に進学する時代となりました。また、日本国内には、国立大学、公立大学、私立大学を含めて795の大学があり、高等教育の選択肢は非常に多岐に渡っています。高等教育が普遍化し、様々な要求に対応できる多様性を持つことは、社会にとって歓迎すべきことです。しかし、その一方で、大学に入り何を学ぶのが曖昧になってしまっているという懸念もあります。



和歌山大学は、教育学部、経済学部、システム工学部、観光学部の四つの学部から構成される小規模の国立大学ですが、その教育のあり方は他大学とは大きく異なっています。多くの大学では、学部は細分化された学科から構成されていますが、本学の四つの学部はいずれも一学科あるいは一課程のみで構成されています。

本学がこのような教育体制をとるのは、学修者たる皆さんが「大学で何を教わるのか？」という受け身の姿勢で学ぶ場ではなく、「自ら何を学ぶのか？」という主体性に着目した学びの場としたいという強い思いの現れです。社会は時々刻々変化しており、従来の類型では分類しきれない産業が芽生えています。また、数年前に新しく発見された科学現象が教科書に記載され、最近発明された技術の実用化も進んでいます。このように、知の空間は常に拡大し、皆さんが学ぶべき内容も時々刻々変化し、拡大しています。変化の激しい社会で自らの活躍の場を得るには、「何を学ぶのか？」という積極的な視点に立った学びが必要です。皆さんが多様な学問を自ら選択して学び、そして大学は皆さんが将来を展望する機会を保証しその学びを支援する、それこそが激動の時代の開拓者を育成する大学としてあるべき姿です。和歌山大学はこのような理念の下、他の大学に先駆けて、一学部一学科、一課程制という新鋭の教育システムを整備し、複雑化する社会課題を解決できる人材を育成することを目指しています。

さらに現在、各学部間の垣根を低くし、視野の広い学びを提供できるよう、大学内外との連携により複合的に学ぶ教育システム（オープンエデュケーション）によって、広い知識に裏打ちされたしなやかな専門性を持つ人材を育成しようとしています。このような教育の一例をあげますと、本学では情報処理、データサイエンス教育を新しい時代の教養であると考え、文系、理系を問わず、同一内容の教育を初年次から実施しています。本学のデータサイエンス教育は、総務省統計局及び(独)統計センターによって開設された統計データ利活用センター、和歌山県データ利活用推進センターや民間企業と連携した実践的な学びとなっています。

和歌山大学の教育システムは、広大な知の空間の中で、自らの道を作り上げていくことに役立つでしょう。どうか皆さん、本学での多様な学びの中で、広い視野を持って、自らの道を描く学修を進めてください。本学の教職員は、皆さんの学びを応援します。

ようこそ和歌山大学へ。皆さんを歓迎します。



令和三年四月五日  
第十七代 和歌山大学 学長

伊東 千尋